

2024年度 一般選抜 後期日程試験問題

群馬県立女子大学 文学部 文化情報学科 小論文

試験時間は、60分です。中途退室は認めません。
途中で気分が悪くなった場合は、黙って手をあげてください。

問題は2問、問題用紙はこの表紙を含めた10ページ(最後の白紙部分は下書き用)です。
解答用紙は2枚です。横書きで記入してください。さらに下書き用の紙(白紙)を2枚配ります。

それぞれが配られたら、指示に従って、各解答用紙の所定の欄に受験番号と氏名を記入してください。
試験開始の合図があるまで問題用紙の表紙をめくって問題を見てはいけません。

問題

問題 1

資料1は、東アジアの 4 つの社会における、成人した子どもとその親(以下、親－成人子と表記する)の援助関係について、社会調査データにもとづいて書かれたものである。資料1(図表を含む)を読んで、以下の問いに答えなさい。

問 1 (ア)～(オ)に、4つの社会の中でもっとも適切なものを書きなさい。

※(ウ)と(エ)は順不同で構わない。

問 2 資料1の内容をふまえたうえで、日本における親－成人子の援助関係のありかたについて、あなたの考えを論じなさい(400字以内)。

こちらの部分は、著作権の都合により、ウェブサイトでの公表はしていません。

こちらの部分は、著作権の都合により、ウェブサイトでの公表はしていません。

【出典】

岩間暁子・大和礼子・田間泰子著『問いからはじめる家族社会学——多様化する家族の包摂に向けて』（有斐閣ストウディア、2015）190-191 頁

【出題者注】

出題にあたって、一部表記を変更した。

問題2

以下の文章において、マトリョーシカ人形が「空間的に回文のような構造を持っている」とはどういうことかを説明したうえで、同じ構造を持つものの例を挙げなさい(500字以内)。

回文あそび

回文とは上から読んでも下から読んでも同じになる語句である。トマトとか新聞紙(しんぶんし)、竹藪焼けた(たけやぶやけた)などが有名だ。ことば遊びという一つのジャンルがあるが、回文はその一角を占めている。「しゃれ」や「なぞなぞ」とは異なり、文字にこだわったことば遊びである。似たものとしては文字を並び替える「アナグラム」がある。

回文集の本もずいぶんたくさん出版されている。数10冊はある。タイトルが回文になっているものでも『またたび浴びたタマ』『分煙禁煙部』『野茂の物は野茂の物』などがある。

回文を作る

いっぺんに回文を作るのはなかなか難しい。断片を少しずつ伸ばしていくとよい。ちょっとやってみる。まず種として「数学」ということばを使うことにする。すると、その逆順は「くがうす」だ。「ガウス」が含まれているのでしめた、と思う。

・・・すうがく・・・くがうす・・・

つぎに、「く」を「書く」にしてみる。

・・・すうがくか・・・かくがうす・・・

「か」が出てきたので「数」にする。

・・・すうがくかず・・・ずかくがうす・・・

真ん中に「み」を入れると「数見ず書く」となってガウスらしくなる。「みな」も入れられる。

・・・すうがくかずみなみずかくがうす・・・

以上は内側に伸ばしていった。外側に伸ばすこともある。「軽く」を付けてみる。こうして

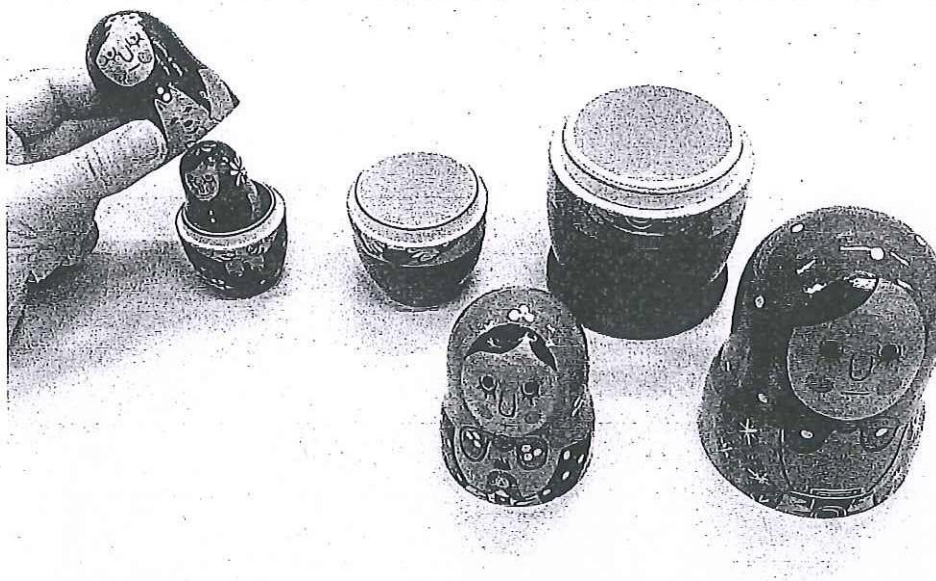
軽く数学数みな見ず書くガウス来るか

(かるくすうがくかずみなみずかくがうすくるか)

ができた。内容的にも天才数学者に合ったものになった。

マトリョーシカ

空間的に回文のような構造を持っているものに「マトリョーシカ」という人形がある。こけしのような人形を開けるとさらに人形があり、それを開けるとまた人形がある。ロシアの土産物として有名である。その起源はどうも日本らしい。入れ子の人形が100年以上前にロシアへ伝わり名物になった。



マトリョーシカ人形（出題者撮影）

小谷善行著『ことばの数理千一夜——ことばの仕組みとパズルと数学と』（日本評論社，2021）

【出題者注】

挿絵および文中の挿絵参照部分は出題にあたって削除した。

下書き用

